

## 第2回オープンセミナーin富山

令和5年8月19日（土）舟橋会館

学び合おう！

子どもの心を育てるために  
～子どもが自分の生き方を考える授業とは～

## 日本一小さい村で日本一の道徳勉強会を開催しました！！

## 第一部 講演「道徳教育とは何か」

「道徳は自由が前提、子どもたちには、自由の主体としての自覚をもち、どういふふうに住きたいのかを考えさせる」という横山先生のお話。それに対して、ある参加者から「自分の学校の子どもの様子を見てみると、問題を起こす子どももいて、自由に考えさせることはどうなのか、休み時間も先生方は子どもから目を離せなくて…」と質問。横山先生は「事無きをよしとして、子どもが悪さをする前に止めようとしているが、そうではない。事が起こってから、『さあ、どうするんや』が大事。子どもを信頼し、子どもに任せるとのこと。」と…。

学校現場の先生方の目を覚まさせるようなお話。今やっていることが、子どもたちの育ちにどんな影響を与えているのか。本当に子どものためになっているのか。本当に子どもを信頼し、愛しているのか。それができているのかどうか、しっかりと振り返り考えなければいけない。



## 第二部 教材「友の肖像画」の読み

休憩時間、横山先生から「そもそも、君とKさんは「読み」が違ってるとんやろ。その違ってるところをやらんと。それが研究や。」と言われ、「やります」と応えた私。「本当にぶつからないと学べない」のは大人も同じ。

Eさんによる範読の後、「この教材でどんなことを子どもたちと考えますか。そのために何と問いますか。」という問いでのグループ協議。「正一が自分の肖像画を見付けて涙した時の思い」と「正一は帰りの電車でじっと目をつむって何を考えていたのか」の2つが出された。先生は「中心発問の候補はその2カ所。肖像画を見て涙するところは実存的な非連続性の箇所。ここで真に大切な真理と出会う。帰りの車中は反省的に自己を振り返っており、ここでの問いは教訓的、読解的になる。」と話された。どちらが問いとしてふさわしいか、根拠をもって論理的に考えるべし！

教材の正一と同じように、自分の経験を振り返っても、それまで見えなかった真理が突然現れた瞬間の経験がある。子どもたちと共に「瞬間に出会った真理」を考え、語り合うのが、道徳の醍醐味なのだろう。

## 【次回のオープンセミナー】

10月14日（土）13：30～（京都 JAビル）

「考え合おう！子どもの心を育てるために ～道徳教育×ICT～」

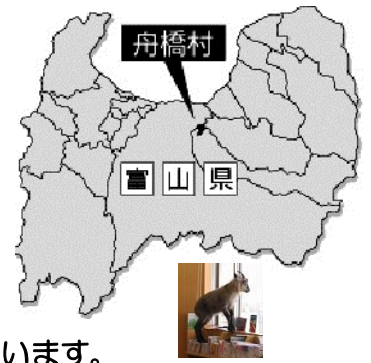
★当研究所所員はセミナー、研修会、講演会の提案をすることができます。ご希望がありましたら、お早めにお知らせください。道徳教育を広げる機会を一緒につくっていきましょう。

## 富山県・舟橋村って？

舟橋村は全国で一番面積の小さな自治体です。県内自治体で人口が減少する中、富山市に隣接し、富山地方鉄道（通称：「地鉄」）の本線（宇奈月線・立山線）が通るこの村では人口も世帯数も増えています。

村の自慢の一つが「越中舟橋駅」に併設された図書館。住民一人当たりの貸出冊数が全国1位に輝いたこともある、みんなに愛されている図書館です。野生の「かもしか」が正面玄関自動ドアから訪れたことがあるくらい！この「かもしか」は絵本にもなって「カーモくん」と呼ばれています。

地鉄では全国の路線で活躍した電車が使われています。京阪電車、西武鉄道・・・鉄道ファンは気付かれたのでは？「かぼちゃ」「だいこん」「レッドアロー」「ライチョウ」などの愛称が付けられ、今も富山県で、けなげに活躍しているのです！



「ライチョウ」



「だいこん」と「かぼちゃ」



地名の由来「舟を連ねた橋」  
～舟橋会館大ホールの緞帳～

いろいろな所から富山にやってきましたよ！

## 四 方 山 話

★暑さ凌ぎに準備した入善ジャンボスイカ。最初は、大きくってうれしい！と思っていたけれど…そのあまりの大きさ（普通のスイカ2つ分はありましたね）のため、運ぶのが大変！切り分けるのも大変！冷蔵庫はスイカでいっぱい！！その挙句…提供のタイミングを逃し、あっという間に夕方に…！どうしよう～～と思っていたら、同じ会場で「こども食堂」のスタッフの皆さんとばったり！最後はなんと、子どもたちに食べてもらいました！！（後で聞くと子供たち大喜びだったそうで😊）はじめからこういう運命だったのですか？！ちょっとした「塞翁が馬」を経験しました。

☆懇親会は地元の仕出し屋さんの二階で。SさんとKさんが大事に持参された銘酒「国権」と「勝駒」により、みなさん、あっという間にほろ酔いのいい感じに仕上がっていました。お料理は、「昆布締め」「黒づくり」「赤巻蒲鉾」「白エビ」「バイ貝」「ホタルイカ」「マスずし」等、富山の味を代表するラインナップでした。そういえば、県外のお客さんが多いですと話したなあ・・・お店のご主人の心遣いでした。

★奥様は、会場での書籍販売係として、約3時間、冷房の効きの悪い2階ロビーで、受付を守ってくださいました。奥様がこのオープンセミナーの立役者であることは、誰もが知っています。当日、最高気温37.1度となった猛暑の富山で、本当にありがとうございました。

☆会場の舟橋会館には、350円で入浴できるお風呂があります。会場で風呂に入り午前中の汗を流し、スッキリしてから参加された方もいらっしゃいました！「お風呂上がりに研修」という新しいスタイル！また舟橋村でセミナーを開催するときは、そういう手もあることをお知りおきください。





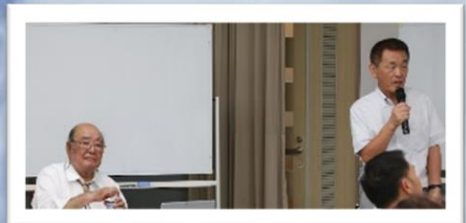
## 【参加者の感想より】

- ★わたしは今の子どもたちの心の弱さを考え、この教材で何を教えようかと考えて教材研究していました。道徳性を育てるという認識が抜けていたので、子どもが自分で自由に考えられるように、そこから道徳性を育てられるように教材研究を進めていこうと思います。
- ★これまでの定例研修や個人研究研修で教えていただいたことを振り返りながら、それらを整理する機会となりました。また、道徳教育に、道徳の授業に求められているものは何なのかについて考えました。横山先生のお話の中で、「道徳は自由が前提である。」「『判断の自由』『意志の自由』が道徳の前提である。」が、心に残りました。私なりの解釈は、道徳の授業において児童生徒の『判断の自由』『意志の自由』が保障されていないと、タテマエだけの授業になってしまう、ということです。
- ★教科化の後に混乱が生じているのは分かる。学習指導要領や道徳と人間性との関係に立ち戻るといのは重要だと思った。今回は道徳と「自由」についてたくさん考えられた。子どもには、自分がどんな存在になりたいかを考えさせようと思った。いつもは予防的生徒指導をやっていて子どもが悪さをする前に止めようとしているが、「ことが起こらなかつたらええんか、そんな世界で生きたいのか」という言葉にはっとさせられた。友の肖像画の指導案研究はとても楽しめた。やはり真の友情は時空を超えるんだなと思った。中心発問は「ここが良い」ではなく「ここじゃないとあかん」と論理的に考えるようにします。難しいけれど。
- ★横山先生のお話で「自由とたてまえのせめぎ合い」の際、「間違いも自由から生じる。自由の理性的な使用が課題」と仰いました。この「理性的な使用」の意味合いが分かるような分からないような…。理性とは何？理性の対義は感性、本性？感情？辞書で書かれている理性は、物事を論理的に考え、正しく判断する能力と書かれています。でも辞書を読むと正しく判断ってなんだ？？と思ったりして…それこそ論理的に考えられなくなってしまい迷宮に入ってしまった。（一部抜粋）



共にあつく語り合った

貴重な  
2ショット×3



あつい夏の日でした



友の  
肖像画



おかげさまで、富山  
から初のリモート！



皆様ありがとうございました